

令和8年度第1回羽島市男女共同参画懇話会要旨

日 時	令和8年5月29日（金） 午前10時～11時00分
場 所	羽島市役所 406会議室
出席者	<p>（委員）出席者7名          大藪千穂会長、岸貴彦副会長、南谷東子委員、山北将誉委員、宇野恵利子委員、河邊雅彦委員、野村美奈委員</p> <p>（事務局）出席者14名          松井市長、伊藤市民協働部長、冨田市民協働課長、奥村同課主幹、桂田同課係長、豊田同課主事、岩田職員課長、長江学校教育課長、前田子育て・健幸課長、國井子育て・健幸課健幸担当課長、加藤子ども家庭センター所長、安田市民総合相談室長、浅野危機管理課長、高田生涯学習課長</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 協議事項1          会長・副会長の選出          会長 大藪千穂委員          副会長 岸貴彦委員 選任</p> <p>4 会長あいさつ</p> <p>5 協議事項2          「羽島市男女共同参画プラン2025」施策内容について          ・事務局より資料に基づき説明          ・事前質問について、各担当課より回答（市民総合相談室、学校教育課、子育て・健幸課、職員課、生涯学習課、危機管理課）</p> <p>【意見・質疑】          （委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女平等の問題は、人権問題の一つとして認識している。</li> <li>・桑原学園では、人権問題について、「認識力」「自己啓発力」「行動力」の3つを大切にしている。また、人権推進校として、地域への啓発活動に取り組んでおり、地域住民と花を育てる活動や、障がい者スポーツ「ポッチャ」の体験学習を実施した。</li> <li>・様々な人権課題を学ぶ中、男女共同参画もその一つとして、障がいの有無による思い込みや偏見とともに考える機会となった。</li> <li>・男女共同参画に関する課題を市民が認識できるよう、動画や掲示</li> </ul>

等による周知啓発が行われているところが非常に良い。

- ・就職や再就職に関する情報提供について、セミナー参加者の実績をお聞きしたい。

(事務局)

- ・就職や再就職に関するセミナー参加者の就職状況について、主催者に確認を行ったが、把握していないとのことであった。
- ・個別の状況や他の要因も関係するため、再就職への効果検証は困難であるが、参加者多数という状況から一定の再就職に効果があるものと考えている。

(委員)

- ・相談窓口は女性に限らず、誰もが相談できる方向へ移行している。
- ・若い世代でアンコンシャス・バイアスが少なくなっていると感じる一方で、高齢世代でDVや人権問題に対する認識が十分でない場合もあり、意識啓発が必要である。
- ・家庭科の男女共修は、男女共同参画の意識啓発に効果的であり、教育の力は非常に重要であると感じる。

(委員)

- ・自身の企業では、管理職が9割以上女性であり、企業の立ち上げから女性が中心となって運営している。
- ・保育の現場では、障がいの有無に関係なく、全員で活動する時間を大切にしている。幼少期のこのような活動経験が、将来の子どもたちの理解につながると感じる。
- ・絵本や物語などを活用し、幼少期から理解を深める取組を積み重ねることが大切である。

(委員)

- ・意識はすぐには変わらないため、継続的な取組が必要である。
- ・男女間に限らず、世代間のコミュニケーションも課題である。
- ・企業においても、会話やコミュニケーションを通じて多様な考え方に触れられる仕組みが重要で、潤滑剤となる役割が必要である。

(委員)

- ・家庭教育学級の開催について、市ホームページでの掲載内容や実施方法、その効果についてお聞きしたい。

(事務局)

- ・家庭教育学級では、情報モラルや思春期の子どもへの関わり方などをテーマに、各学校で企画をしている。
- ・オンライン開催時は参加率が高かったが、その後、参加率の低下が課題となっている。
- ・ホームページには、各学校の活動報告を行っている。

(委員)

- ・多様性の理解と人権尊重を基盤とした取組がある中で、セクハラやDV等の相談窓口についての周知方法は。
- ・人権相談の周知や、人権課題に対する対応策の充実が必要である。
- ・市役所女性職員の役職配置や登用に関する計画の有無についてお聞きしたい。

(事務局)

- ・人権相談については、ホームページや相談ダイヤル、公共施設での案内、広報紙への掲載により周知している。

(事務局)

- ・具体的な配置計画はないが、人材育成方針に基づき方向性を定めている。
- ・本人の自己申告を通じて、キャリアプランを把握しながら人事配置を行っている。

(事務局)

- ・現在、男女平等に採用が行われているが、課長補佐以上の有資格者の割合には年代による差がみられる。
- ・管理職相当のキャリアを積んだ女性職員が少ないため、課長補佐以上の女性職員の割合は22%となっているが、比較的高率であると考えます。
- ・教育分野では、男女共同参画が比較的進んでいると感じるが、自治会加入率の低下や役員の担い手不足など、地域コミュニティの課題が深刻化しており、地域任せでは解決が非常に難しい状況にある。そのような中、女性の活躍を推進できるよう、意見聴取の機会や窓口を増やしていきたい。

6 閉会